≪特別寄稿・企画研修①≫

岩槻人形博物館のコレクションを通して日本人形の文化を学ぶ

今年度第一回企画研修会が七月二十三日（土曜）十四時三十分から岩槻人形博物館において開催された。コロナ禍で三十名という上限と団体扱い二十名以上という下限がある中で二十三名の参加者があった。今回は市内各班の皆さんに案内をした所、班外からも四名の参加があった。

岩槻人形博物館は日本有数の人形産地であるさいたま市岩槻区に、日本初の人形専門の公立博物館として、二〇二〇年二月二十二日に開館した。近代人形産業の拠点として発展した岩槻に伝わる人形作りの技を紹介するだけでなく、日本文化の中に息づく人形の美と歴史を大観し広く発信していくミュージアムとして開館し、市内の多くの小学校からも社会科見学で訪れている。比較的新しい会館のため、現役時に訪れたことがなく、大変有意義な研修となった。

まず、会長あいさつに続き、第一部では、岩槻の職人による人形作りの過程【頭づくり（生地づくり、胡粉塗り、目きり、髪つけなど）、胴体づくり（衣装着と木目込みの違い等）】をＤＶＤを見ながら、各過程を学芸員に解説していただいた。

第二部は博物館の日本人形のコレクションを見学しながら、御所人形、武者人形、古今雛、有職雛、享保雛、嵯峨人形、衣装着人形、市松人形、加茂人形等について、それらの特徴と生まれた時代背景等を細かく解説していただいた。さらに企画展示「郷土玩具～赤色おもちゃ～」も解説してくださり、充実した研修会となった。

DVD 視聴

御所人形

当日は猛暑日であったが、快適な冷房の中で研修ができた。また、ただ漫然と見ているだけでは興味もわかないが、学芸員の菅原千華氏の解説付き観覧や会員からの質問により、地場産業に目を向けるなど理解が深まった。

コレクション見学

参加者からは、コロナ禍の中、久々に会話を交わせるよい機会となったと好評だった。今後、「まちかど雛めくり」にも生かせる研修であり、地元の公共施設を活用したよい研修だったと考える。

（担当幹事　林　春枝）